

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時： 令和4年2月3日（木） 11：00～11：45
場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

発表事項

1. 「国立大学法人山形大学の令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果」について
2. はじめます、未来のまちとひとのためアーカイブづくり
～附属博物館が地域のデジタルアーカイブ構築に着手。キックオフフォーラム開催～
3. 国際学術講演会
山形における少子高齢化社会と多文化共生～結婚移住から労働移住まで～
4. 「蔵王高層気象着氷対策研究所」に関する終戦時の資料や戦後のカラー写真が見つかりました

お知らせ

1. 令和3年度山形大学校友会学生幹事企画 山大生×若手卒業生交流会について
2. 令和3年度学生幹事企画「山大生の活動支援プロジェクト(V)」成果発表会について
3. 令和3年度山形大学同窓生セミナーについて
4. 令和3年度山形大学特別イベント「文明開化の舞台 横浜を歩く」について
～バーチャル町歩きと落語口演をオンライン配信～

（参 考）

○ 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時： 令和4年3月3日（木） 11：00～11：45

場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

学長定例記者会見（2月3日）発表

1. 「国立大学法人山形大学の令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果」について

学長

たまた ひでとし
玉手 英利

2. はじめます、未来のまちとひとのためアーカイブづくり ～附属博物館が地域のデジタルアーカイブ構築に着手。キックオフフォーラム開催～

学術研究院 准教授（学士課程基盤教育機構担当）

さとう こと
佐藤 琴

3. 国際学術講演会 山形における少子高齢化社会と多文化共生～結婚移住から労働移住まで～

学術研究院 教授（日本語学）

なかざわ のぶゆき
中澤 信幸

4. 「蔵王高層気象着氷対策研究所」に関する終戦時の資料や戦後のカラー写真が見つかりました

山形大学蔵王樹氷火山総合研究所 副所長

やなぎさわ ふみたか
柳澤 文孝

令和4年（2022年）2月3日

「国立大学法人山形大学の令和2年度に係る 業務の実績に関する評価結果」について

【本件のポイント】

- 昨年12月1日開催の「国立大学法人評価委員会総会」において、令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果が決定した。
- 【注目される点とされた事項】のうち、本学の「メディアミクスを活用した戦略的な情報発信」について、注目すべき点として取り上げられた。
- 新型コロナウイルス感染症に対応するための各法人の取組についても、本学の取組が掲載された。

【概要】

昨年12月1日に「国立大学法人評価委員会総会」において、令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果が決定し、公表されました。山形大学の令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果については、別紙のとおりです。

本学の評価は、評価項目である「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び情報提供」、「その他業務運営」のうち、2項目が「一定の注目事項」に、2項目が「順調に進んでいる」と評価されました。なお、「一定の注目事項」以上の評価を2項目以上受けたのは、本学と金沢大学のみとなっています。

【全国国立大学法人の評価結果の分布】

(法人数)

評価区分	業務運営の 改善・効率化	財務内容の 改善	自己点検・評価 及び情報提供	その他 業務運営
中期計画の達成に向けて 特筆すべき進捗状況にある	1 (1.2%)	0 (0.0%)	1 (1.2%)	0 (0.0%)
中期計画の達成に向けて 順調に進んでおり一定の注目事項がある	7 (8.4%)	5 (6.0%)	1 (1.2%)	1 (1.2%)
中期計画の達成に向けて 順調に進んでいる	74 (89.2%)	77 (92.8%)	81 (97.6%)	81 (97.6%)
中期計画の達成に向けて おおむね順調に進んでいる	1 (1.2%)	1 (1.2%)	0 (0.0%)	1 (1.2%)
中期計画の達成のためには 遅れている	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
中期計画の達成のためには 重大な改善事項がある	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

※各欄の（ ）内は全法人数に占める該当法人数の割合を示す。

お問い合わせ

山形大学総務部企画IR課

TEL 023-628-4190 メール yu-kikair@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学 評価結果推移一覧表

	第3期中期目標期間					
	H28	H29	H30	R1	R2	R3
業務運営の改善及び効率化	4	5	4	4	5	
財務内容の改善	4	4	5	4	4	
自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供	5	4	4	4	5	
その他業務運営(施設整備・安全管理等)	4	4	4	4	4	

(評価)

6	中期計画の達成に向けて <u>特筆すべき進捗状況にある</u> (国立大学法人評価委員会が特に認める場合)
5	中期計画の達成に向けて <u>順調に進んでおり、一定の注目事項がある</u> (すべてⅣまたはⅢかつ注目すべき点が一定程度ある場合)
4	中期計画の達成に向けて <u>順調に進んでいる</u> (すべてⅣまたはⅢ)
3	中期計画の達成に向けて <u>おおむね順調に進んでいる</u> (ⅣまたはⅢの割合が9割以上)
2	中期計画の達成のためには <u>やや遅れている</u> (ⅣまたはⅢの割合が9割未満)
1	中期計画の達成のためには <u>重大な改善事項がある</u> (国立大学法人評価委員会が特に認める場合)

注)

国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第3期中期目標期間における各年度終了時の評価に係る実施要領(平成27年5月27日国立大学法人評価委員会決定。平成29年3月2日一部改正。平成31年3月22日一部改正)から

Ⅳ：中期計画を上回って実施している

Ⅲ：中期計画を十分に実施している

Ⅱ：中期計画を十分には実施していない

Ⅰ：中期計画を実施していない

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人山形大学

1 全体評価

山形大学は、「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を使命とし、学生教育を中心とする大学創り、豊かな人間性と高い専門性の育成、「知」の創造、地域創生及び国際社会との連携、不断の自己改革という5つの基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に全力で取り組み、国際化に対応しながら、地域変革のエンジンとして、キラリと光る存在感のある大学を目指している。第3期中期目標期間においては、地域活性化の中核になりつつ、特定の分野で世界ないし全国を牽引する教育研究拠点となるため、実践力と人間力を備えた人材の育成、地域の課題を解決し世界をリードする研究の推進、産業界等との連携による地域変革の牽引等をビジョンとして基本的な目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、SDGsの実践において主導的役割を担う組織を学内に設置し、学内及び地域へSDGsの活用と支援を強化することを目的として、「YU empowering with SDGs」事業を推進することを表明するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 授業改善アンケートを基盤共通教育においては、前後期全ての科目についてオンライン方式で実施し、その結果を学生掲示板に掲示するとともに各教員にもフィードバックし、各自の授業改善に役立てている。授業改善アンケートについては、連携IRとして、学修成果等アンケートと共同で実施し、授業改善アンケートの結果については、「基盤共通教育評価改善報告書」を作成し共有している。（ユニット「基盤教育改革と質保証の強化による実践力と人間力を備えた人材の育成」に関する取組）
- 次世代型医療用重粒子線照射施設は、令和2年12月に山形大学医学部東日本重粒子センター開所式を開催し（ウェブサイト開催）、水平固定照射室については令和3年2月に治療を開始している。令和3年1月には、重粒子線治療と放射線及び生物医学研究における友好関係と国際協力を推進することを目的として、韓国のソウル大学病院と協力協定を締結した。韓国最高学府とされるソウル大学には東日本重粒子センターと同型の治療装置の導入が決定しており、がん治療に関する臨床実績の情報交換や人材交流により連携を図っていくこととしている。
（ユニット「先進的な研究成果の社会実装と世界最高水準医療の提供による地域変革の牽引」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○				
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○				
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでおり一定の注目事項がある

(理由) 年度計画の記載17事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の注目すべき点があること等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ SDGsの貢献に資する経営の推進

学内及び地域へSDGsの活用と支援を強化することを目的として、「YU empowering with SDGs」事業を推進することを表明し、山形県内の企業、自治体、大学等の各種団体等への参加を呼びかけ、「やまがたSDGs推進ネットワーク」(山形大学と山形新聞社が事務局を担当)を組織し取組を開始している。また、ウェブサイト「YU-SDGs Empower Station」を開設し、SDGsの17目標の全てを、目標ごとに対応する研究や教育活動等により紹介し、興味のある内容を知りやすくするため目標別に検索・表示が可能で、小中学生等も親しめるよう遊び心のあるデザインとなっている。

○ 入退館システムの更新や共通的な事務手続きを行う部署の新設

法人本部内の共通的な事務手続き(採用に係る事務手続き、物品購入手続き等)を集約し行う部署を新設し、各部の業務効率の向上に繋げた。また、年末調整手続の電子化、テレワーク用パソコンの導入やモニター・マイク等の備品購入によるテレワーク環境の整備、学内会議及び打合せをZoom等のオンラインシステムによる実施、書面主義・押印原則及び対面主義の見直しに向けた学内手続きの棚卸を行っている。さらには、法人本部棟の入退館システムをマイナンバーカード対応機器に更新し、マイナンバーカードの活用による職員の出退勤管理に向けた取組を実施している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 知的財産権活用率の向上

ライセンス契約の増加による特許料収益の増加、活用見込みのない特許権の除却による知的財産権保有額の減少により知的財産権活用率が向上している。特に、新技術や産学連携に興味のある企業関係者に向けて、研究者（＝発明者）自らが直接プレゼンテーションする科学技術振興機構主催の新技術説明会等を活用し、大学の特許技術に興味をもった企業に積極的に働きかけることにより、ライセンス契約に繋げている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでおり一定の注目事項がある

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の注目すべき点があること等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ メディアミクスを活用した戦略的な情報発信

各キャンパスにおける、オンラインによる「バーチャルオープンキャンパス」の開催や広報誌「みどり樹」や山形大学ウェブマガジンでオリジナルブランドサイトである「ひととひと」、公式SNS等の複数メディアを活用し、山形大学に関わる人2,758人の紹介を実現、SDGsの普及啓発のためのウェブサイト「YU-SDGs Empower Station」を開設し、ウェブサイトの閲覧数は740万PVに達している（対前年度比で170万PV増）。さらには、学長定例記者会見での発表・通知を軸とした積極的なプレスリリースを行った結果、215件のプレスリリースの内、160件がメディア報道につながり、メディア採択率は目標値(58%)を大幅に超え、74%を達成している。

○ キャンパス運営を活性化するための取組

これまでのキャンパス経営力評価の実施状況を検証し、キャンパスのビジョンに応じた新規性・先進性のある事業の育成を目的としたチャレンジ評価、予算獲得並びに中期計画の着実な達成を推進しキャンパス経営力強化を図ることを目的とした共通指標による評価を取り入れた評価システムを再構築している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、令和元年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 大学間連携によるオンラインを活用した障害学生支援

山形大学障がい学生支援センターでは、教員と支援学生が、米沢女子短期大学在籍の聴覚障害学生に対し、遠隔情報保障支援（インターネット等を介して、授業者の発話等を文字化し、聴覚障害学生伝達する支援）を開始している。支援者は、障がい学生支援センターやそれぞれの自宅から、情報保障及び音声認識機能を持つウェブサイトシステムを用いて授業者の発話を文字化し、聴覚障害学生は、その文字情報を閲覧しながら授業に参加し、利用学生、支援学生双方にとって学びと成長の機会となっている。大学間で連携し、オンラインで聴覚障害学生支援にあたる取組は山形県内初であり、支援リソースを共有することで、大学の枠を超えた情報保障支援体制の更なる拡充を図っていくこととしている。

○ 産官学連携による産業のDX（デジタルトランスフォーメーション）

大学と株式会社酒オンタップ山形（山形大学有機材料システム事業創出センター内を本社として設立）は、山形県の伝統的な産業である日本酒の流通におけるイノベーションにより新規需要創出や付加価値向上を目指し共同研究を開始している。農学部、工学部及び理学部と酒オンタップ山形の共同研究における、日本酒の成分・微生物・味覚データ解析及び独自のプラットフォーム「酒オンタップ」を用いたデジタルトランスフォーメーションにより、日本酒の嗜好性、熟成度等を可視化し、山形県産日本酒等の販売拡大、付加価値向上に寄与することで、山形県の伝統的な産業である日本酒のDX化について、コロナ禍を乗り越え、さらに拡大させるための活動を県内の産官学が一体となった体制を構築し取り組んでいる。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ スキルアップ研修制度の導入

令和2年10月入学者から、大学病院に雇用されている看護師、臨床検査技師等の医療職員を対象として、大学院医学系研究科に進学した場合、就労支援としての進学支援金（納付した入学料及び授業料の1/2）を給付するスキルアップ研修制度を設け、5名が本制度を利用するなど、医療職員の質向上に取り組んでいる。

（診療面）

○ 重粒子線がん治療の開始

東北・北海道で初となる山形大学医学部東日本重粒子センターにおける重粒子線がん治療を令和3年2月から開始するとともに、令和3年1月には、重粒子線治療と放射線及び生物医学研究における国際協力を推進することを目的として、韓国のソウル大学病院と協力協定を締結するなど、重粒子線がん治療に関わる教育、研究、診療を推進している。

13 山形大学

(運営面)

○ 新型コロナウイルス感染症対応に関する取組

令和2年6月と令和3年1月に外来患者(1,000名程度)を対象に新型コロナウイルス感染症血清疫学調査を行い、その結果を公表するなど、新型コロナウイルス感染症対応に取り組んでいる。

PRESS RELEASE

令和4年（2022年）2月3日

はじめます、未来のまちとひとのためアーカイブづくり ～附属博物館が地域のデジタルアーカイブ構築に着手。キックオフフォーラム開催～

【本件のポイント】

- 山形大学附属博物館は、貴重な地域資源を発見・保全し、市民とともに活用できる「デジタルアーカイブ」の構築に着手する。
- より良いアーカイブにするために、大学と街の歴史を振り返るとともに、現在とアフターコロナについて考えるフォーラムを開催する。
- フォーラムの開催は、2019年2月5日に山形大学附属博物館が交流協定を締結したヨーロッパ最古の大学・ボローニャ大学の博物館システム総責任者をはじめ、さまざまな方々から意見を寄せていただくことが目的。



【概要】

山形大学附属博物館は、貴重な地域資源を発見・保全し、市民とともに活用できる「デジタルアーカイブ」の構築に着手します。より良いアーカイブにするために、山形大学附属博物館と交流協定を締結しているヨーロッパ最古の大学・ボローニャ大学の附属博物館をオンラインでつなぎ、大学博物館と街・地域の関わりや取り組みについて考えるキックオフフォーラムを開催します。大学が街とともに発展してきた経緯を振り返りながら、大学博物館が地域のデジタルアーカイブを構築する意義について考えるフォーラムです。フォーラムには、ボローニャ大学の博物館システム総責任者をお招きし講演いただくほか、本学の小幡圭祐准教授らが登壇します。

【イベント概要】

日時／2022年2月10日（木） 11日（金・祝） 両日 18:00～20:00

会場／オンライン会議システム Zoom ミーティング（交流拠点施設「N-GATE」レンタルスペースより配信）

参加費／無料 定員／300名（要事前申込）

プログラム／

2月10日（木） 第1部

「世界とともに考えるパンデミック後の大学博物館の未来」

ロベルト・バルツァーニ ボローニャ大学教授・博物館システム総責任者

2月11日（金・祝） 第2部

「アーカイブは未来のために なぜ山形大学附属博物館が地域の記憶をアーカイブするのか？」

小幡圭祐 山形大学准教授（人文社会科学部）

※両日とも、講演 40 分、質疑応答 60 分を予定しています。

※日本語講演はイタリア語字幕付き、イタリア語講演は日本語字幕付き、質疑応答はリアルタイムで通訳有

【申込方法】

2月9日（水）までに、QRコードまたはURLからお申込みください。

<https://www.ocans.jp/yamagata-u?fid=Mk4z8DGe>



お問い合わせ

学術研究院准教授 佐藤琴（附属博物館）

TEL 023-628-4930 メール koto-s@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学エクステンションサービス推進本部

TEL 023-628-4779 メール yu-extension@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

2021年度 山形大学 地域連携プラットフォーム 構築プロジェクト キックオフフォーラム

小白川キャンパスが 100 年を迎えるこの記念の年に、山形大学はこれまでの軌跡を振り返るとともに、これからの 100 年の展望を打ち出していきます。そのキックオフイベントとして、大学と街の歴史を振り返るとともに、現在とアフターコロナについて考えるフォーラムを実施します。今回は2つの視点を取り上げます。まずは山形市誕生から現在まで道のりと、その過程を物語る資料を収集・保存してきた人々と山形大学附属博物館についてです。もう1つの視点は海外からです。山形大学附属博物館が連携協定を締結しているボローニャ大学附属博物館から、大学と街とが共に発展してきた経緯と、新型コロナウイルス感染症をどう乗り越えつつあるのか、そして、その後の街と大学と博物館との関係について展望をお話いただきます。

激変する社会において、より良い未来を作っていくためには早急に答えを出すのではなく、一人一人が考える基盤を形成していくこと、そして、共に生きるひとたちが手をつなぎ、話し合える場が常にあることです。本フォーラムがそのきっかけとなることを目指します。

七日町と山形大学、そして、ボローニャ（イタリア）の取組み

はじめます、 未来のまちと ひとのため のアーカイブづくり



2022年

2月10日[木]・2月11日[金祝] 18時▶20時

講演	18:10-18:50
質疑応答	19:00-20:00

2月10日

第1部 | 世界とともに考える
パンデミック後の大学博物館の未来

ロベルト・バルツァーニ
ボローニャ大学教授・博物館システム総責任者



2月11日

第2部 | アーカイブは未来のために
なぜ山形大学附属博物館が地域の
記憶をアーカイブするのか？

小幡圭祐
山形大学准教授(人文社会科学部)



コメンテーター

ファシリテーター

山本陽史
山形大学教授



佐藤琴
山形大学准教授



場所

■ オンライン会議システムZoomミーティング
交流拠点施設「N-GATE」レンタルスペースから配信

※日本語講演はイタリア語字幕付き、イタリア語講演は日本語字幕付き、
質疑応答はリアルタイムで通訳有です。

お申し込み方法

QRコードまたはURLからお申し込みください。
Zoomの接続情報、参加方法等詳細は、お申し込み後に
メールでご案内いたします。

[定員] オンライン300名 [申込締切] 2月9日(水)

<https://www.ocans.jp/yamagata-u?fid=Mk4z8DGe>



お問合せ

山形大学エクステンションサービス推進本部
TEL:023-628-4779
E-mail:yu-extension@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

[主催] 国立大学法人山形大学(担当:附属博物館、エクステンションサービス推進本部)
[共催] 七日町商店街振興組合、山形大学校友会、山形大学SCITAセンター、
山形大学歴史・地理・人類学研究会
[協力] 山形まちづくり株式会社
[後援] 山形市、ふすま同窓会、山形大学地域教育文化学部同窓会・一般財団法人教友会
チェントロ・ポリティコ研究会、日本ミュージアム・マネジメント学会
[助成] 公益財団法人カメイ社会教育振興財団(仙台市)

令和4年（2022年）2月3日

国際学術講演会

山形における少子高齢化社会と多文化共生～結婚移住から労働移住まで～

【本件のポイント】

- 山形県の人口減少を契機とする、外国人定着に関するシンポジウムを開催。
- 山形やその他地域の国際化における諸問題（結婚移住、労働移住）について討論する。
- 外国人定着について考える機会を提供し、労働政策や多文化共生政策を構想する際の一助となるのを目指す。

【概要】

近年、山形県は人口減が深刻化しており、外国人定着が地域社会や地域経済を維持するうえで鍵とされている。しかし、山形県において外国人が定着しているとはいいがたい。例えば、県労働人口に占める外国人労働者の割合は全国平均を下回っている。外国人を受け入れる側（地域住民や企業、行政など）がどのように接すればよいかかわからないという声も大きい。このような山形県の状況において、外国人を受け入れる側はどう対応していけばよいのだろうか。本講演会では、地域創生、文化人類学、政治学の見地から外国人問題を専門とする研究者3名を迎えて、結婚移住、外国人をめぐる法律・制度、山形の外国人定着の実態といった、山形やその他地域の国際化における諸問題についての講演と討論を行う。

【日時】

2022年3月5日（土） 13:00～16:00

【場所】

山形大学小白川キャンパス人文社会科学部 301 教室

【講演者・題目】

- 「山形県における外国人受け入れの経緯と現況について」松本邦彦（山形大学人文社会科学部）
- 「地域への外国人労働者受け入れの課題：法制度が職場における関係に与える影響から考える」岸見太一（福島大学行政政策学類）
- 「「外国人花嫁」と呼ばれた移住女性たちと東北の多文化共生：彼女たちの現状が示唆するもの」李善姫（東北大学東北アジア研究センター）
- 「山形県内における外国人労働者を取り巻く現状と課題ー現場からの声ー」大沼みずほ（大正大学地域構想研究所）
- ・〈モデレーター〉源島穰（山形大学人文社会科学部）・〈総合司会〉中澤信幸（山形大学人文社会科学部）

【主催】

主催 山形大学人文社会科学部

共催 YU-COE(M) 移民社会における多文化共生論 山形大学都市・地域学研究所

【申し込み】

コロナウイルス感染防止対策のため、事前申込制といたします。

参加を希望される方は、下記 URL もしくは右の QR コードからアクセスし、必要事項を入力してください。

<https://forms.gle/7Fo7GUWri1N5D1yy9>

※申し込み締切は2月25日（金）といたします。



お問い合わせ

学術研究院教授 中澤信幸（日本語学）

TEL 023-628-4822 メール nakazawa@human.kj.yamagata-u.ac.jp



山形における 少子高齢化社会と 多文化共生

結婚移住から
労働移住まで



2022
13:00
16:00
3/5 土

山形大学 小白川キャンパス
人文社会科学部301教室

※コロナウイルスの感染状況によっては、全面オンラインでの開催となる可能性もあります。

CONTENTS

松本 邦彦 (山形大学人文社会科学部)
「山形県における外国人受け入れの経緯と現況について」

李 善姫 (東北大学東北アジア研究センター)
「「外国人花嫁」と呼ばれた移住女性たちと東北の多文化共生：彼女たちの現状が示唆するもの」

岸見 太一 (福島大学行政政策学類)
「地域への外国人労働者受け入れの課題：法制度が職場の関係に与える影響から考える」

大沼 みずほ (大正大学地域構想研究所)
「山形県内における外国人労働者を取り巻く現状と課題ー現場からの声ー」

〈モデレーター〉源島 穰 (山形大学人文社会科学部)
〈総合司会〉中澤 信幸 (山形大学人文社会科学部)

お申込み方法

コロナウイルス感染防止対策のため、事前申込制となります。

下記にアクセスし必要事項を入力してください。

<https://forms.gle/7Fo7GUWri1N5D1yy9>



〈お申込み締切〉2月25日(金)

お問い合わせ

山形大学 人文社会科学部 担当：中澤信幸

〒990-8560 山形県山形市小白川町1-4-12 TEL：023-628-4822
Mail：nakazawa@human.kj.yamagata-u.ac.jp

主催：山形大学人文社会科学部

共催：YU-COE (M) 移民社会における多文化共生論
山形大学都市・地域学研究所

令和4年（2022年）2月3日

「蔵王高層気象着氷対策研究所」に関する 終戦時の資料や戦後のカラー写真が見つかりました

【本件のポイント】

- 戦時中、地蔵岳山頂にあった「蔵王高層気象着氷対策研究所」について、終戦時の資料から、航空気象（高層気象）の研究が行われていた。
- 1960年代初めの絵葉書から赤い三角屋根であったことが確認され、1970年頃までは避難小屋として使われていた。
- 1970年に撮影された航空写真の建物の撤去跡から、正確な位置と大きさがわかった。



蔵王高層気象着氷対策研究所（赤い三角屋根）

【概要】

戦時中、地蔵岳山頂にあった「蔵王高層気象着氷対策研究所」についての資料と写真が見つかり、次のことがわかりました。（1）終戦時の資料から、同研究所では航空気象（高層気象）の研究が行われ、終戦直後からは避難小屋として使われていた（2）1960年代始めの絵葉書から、研究所が赤い三角屋根の建物であることが確認できた。（3）1960年代のパンフレットから「東北大学 地蔵三角小屋」との名称で避難小屋として使われた。（4）1970年に撮影された航空写真に写っている撤去跡から、研究所の正確な位置と大きさがわかった。

【1. はじめに】

戦時中、蔵王山の地蔵岳山頂には「蔵王山測候所」と「蔵王高層気象着氷対策研究所」の2つの建物が作られていました。棚野榮司氏（95歳、山形市在住）が撮影した写真から「研究所」が見つかっています（図1）。

「研究所」は赤い三角屋根だったとのことですが白黒写真のため判断できていませんでした。「研究所」は「測候所」から100mほどのところにありましたが、軍事機密のため、交流は無く、人がいるのかもわからなかったとのことから、正確な場所や大きさも不明でした。

今回、「蔵王高層気象着氷対策研究所」について、終戦時の資料、1960年代初めの絵葉書と資料、1970年に撮影された航空写真が見つかりました。

【2. 昭和19年12月・昭和20年8月の資料】

- 天気 1998年 54ページ 「F.M.Exner著Dynamische Meteorologie翻訳後日譚」

佐藤隆夫氏（東北帝国大学講師）「昭和19年といえば生活環境は極めて劣悪であった上、陸軍将校に協力して体感温度零下35℃の蔵王山山頂で航空機の翼に氷の付着する研究に従事していた。」

「研究所」では昭和19年12月ころから着氷の研究が始められたことがわかります。

- 地球物理便り 創刊号 1964年 22ページ 「北から南から地球物理の友は応える」（図2）

永井旺氏「・・・航空気象がやりたくてやりたくて、地物発足と同時に物理から転科した当時のことが目の前に浮かんできます。飛行機の着氷現象を調べると称して、加藤先生に同伴して厳冬の蔵王に登った事。昨今の蔵王と違い。戦時中のことでも有り、山に居るのは研究所と測候所の人々だけ、樹氷の美しさを堪能したこと。続いて蔵王山頂で迎えた終戦。・・・」

「研究所」で終戦を迎えたとあることから、航空気象（高層気象）に関する研究も行われていたことがわかりました。なお、この資料は山本希准教授（東北大学 地震・噴火予知研究観測センター）に教えていただいたものです。

【3. 1947年～1950年の資料】

- やまがた街角 10号（2003年） 「原体験はふるさとの雪の蔵王」

小倉董子「戦後間もない昭和22年1月、父（後藤幹次）とその山仲間と混じって、13歳の私は、蔵王スキーツアーに連れて行かれた。・・・ようやく測候所のある地蔵岳山頂に到達した。青い空に砂糖菓子のような建物が、可愛らしく、又、雪面のクラストした波状の模様がとても美しかった。・・・寒さと風を避けるために、

荒れ果てた測候所の中に入り、凍りついたおむすびを頬ばる。・・・」

資料では、「測候所」に入ったと記載されています。しかし、「測候所」は昭和22年9月まで稼働していたことから、入ったのは「研究所」と考えられます。

●コーボルト ～その五十年～ 昭和53年 フュッテン・ブーフより 201-202ページ

昭和23年（1948年）2月8日 鏡・広瀬・釜田・井上・宮山・福岡

「・・・モタモタしている中に正午になる。午後東北大の学生が研究所まで登る為に寄ったので早速雁戸行の為に、研究所に泊めて貰う様に準備を整へ、三時迄に研究所に着く。風は大分強い。研究所の中はすべて凍り着いている。やっと火がついたと思ふと天上の氷が解けて水滴がポタリポタリ。グシャグシャに濡れた床の上に藁ボタンを出して寝る。寒い事甚だしい。明日晴れば雁戸行を決定する予定。・・・」

凍結し荒れ果てた状態とあることから、避難小屋のような形で（勝手に）使われていたと考えられます。

【4. 1960年代始めの絵葉書とパンフレット】

1950年代、地蔵岳山頂に東北管区警察局無線中継所の鉄塔が建てられ、測候所と研究所の間に関連施設が作られました。また、1961年に蔵王ロープウェイ山麓線が、1963年に蔵王ロープウェイ山頂線が作られました。今回見つかった絵葉書やパンフレットは蔵王ロープウェイの開業に合わせて作られたと考えられます。

●絵葉書

*蔵王温泉

お地藏さんから地蔵岳山頂を見上げたものです（図3・図4）。蔵王ロープウェイ山頂駅の絵葉書も同封されていることから、蔵王ロープウェイ山頂駅完成後である1963年以降に撮影されたと推定されます。写っている建物は、右から「測候所」「付随施設」「研究所」です。

*蔵王山大観

地蔵岳山頂、山頂からお地藏さんまで下る山道が写っています（図5・図6）。また、お地藏さん付近に蔵王ロープウェイ山頂駅と思われる建物が写っていることから、1963年以降に撮影されたと推定されます。写っている建物は、奥から手前に向かって「測候所」「付随施設」「研究所」です。「研究所」は赤い三角屋根と言われていましたが、確かに赤い三角屋根の建物であることが確認できました。戦時中に赤い屋根は目立つと思いますが、「研究所」ではなく山小屋に見えて良かったのかもしれませんが。なお、赤い屋根の建物の形状（図6）は、戦前の白黒写真（図1）と同じであることから、戦後になってから大きな変更はしなかったと考えられます。

*蔵王エコーライン

熊野岳から撮影したもので、建物は奥から手前に向かって「測候所」「付随施設」「研究所」です（図7・図8）。赤い三角屋根の「研究所」が確認できます。この絵葉書は山本希准教授（東北大学 地震・噴火予知研究観測センター）に教えていただいた資料です。大判とのことでしたので1960年代後半ではないかと推定されます

●「蔵王連峰案内地図」

山形県・宮城県が発行した「国定公園候補地 蔵王連峰案内地図 1962」（図9・図10）、および、山形県・山形県観光協会・宮城県観光協会が発行した「国定公園 蔵王連峰案内地図 1963」の山小屋の項に「研究所」が掲載されています。名称は「地蔵三角小屋」、位置は地蔵山、管理者は東北大学、収容人数30名、宿泊・燃料・水・食事は不可、開設期間は年間となっていました。山小屋というより避難小屋の扱いです。

【5. 1970年10月7日の航空写真】

1970年10月7日に国土地理院によって撮影された蔵王附近の航空写真（図11）から、遅くとも1970年には「東北大学 地蔵三角小屋」および「中央气象台 蔵王山測候所」が撤去されていたことが分かります。また、「地蔵三角小屋」があったと考えられる場所に建物があったことを示す四角い撤去跡が見えることから、建物の正確な位置と大きさ（おおよそ10m x 7m）がわかりました。

【意義と今後の展望】

地蔵岳山頂は人気の撮影スポットですが、戦時中に「蔵王高層気象着氷対策研究所」や「蔵王山測候所」があったことは知られていません。戦時中の状況を伝えていく意義は大変大きいと考えられます。

山形市立図書館では、2022年2月19日から3月19日まで「市民の出版物展特別展示」が開催され、「戦時下の蔵王展」も行われます。これまでに見つかった「蔵王高層気象着氷対策研究所」「蔵王山測候所」に関する資料、および、今回見つかった資料を展示する予定です。

（お問合せ先）

山形大学蔵王樹氷火山総合研究所 副所長

山形大学名誉教授 柳澤 文孝（環境科学）／メール icemonster.white@gmail.com



図1 蔵王高層気象着氷対策研究所（奥の三角屋根の建物）

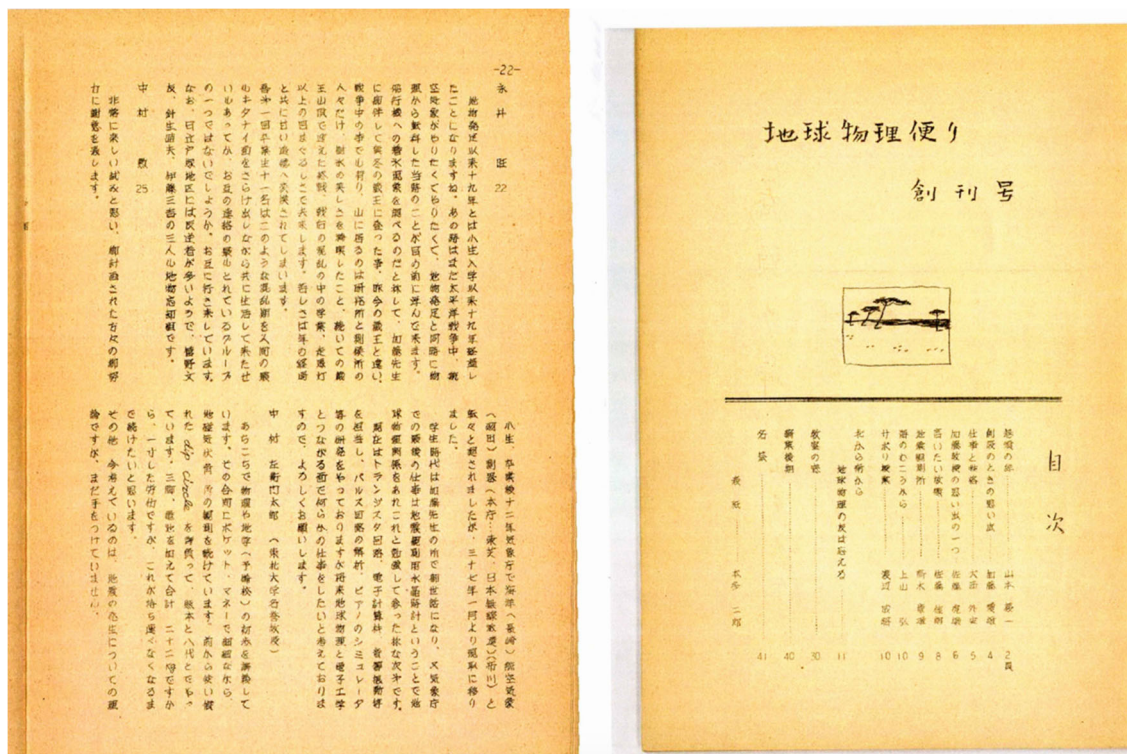


図2 地球物理便り 創刊号 (1964年) 「北から南から地球物理の友は応える」 22ページ 永井旺氏



図3 絵葉書「蔵王温泉」 お地藏さんと地藏岳山頂

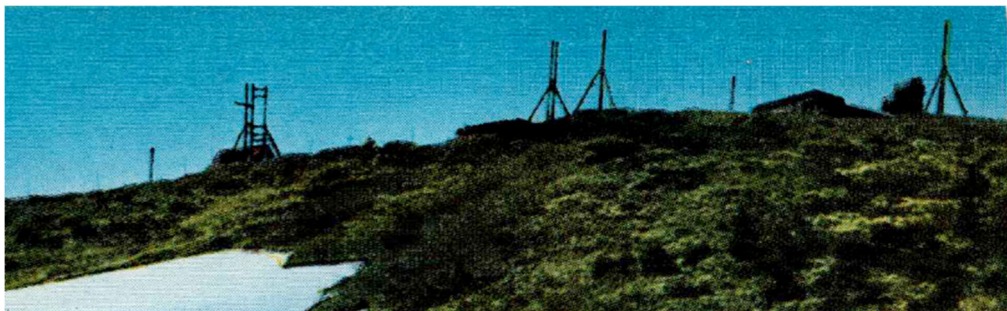


図4 絵葉書「蔵王温泉」 お地藏さんと地藏岳山頂 (拡大)



VIEW OF MT. ZAÔ

地藏岳より月山を望む

山頂は砂礫の高原地帯で、その雄大な景観は百歳の頭首
山岳首位の名を辱しめず英峯月山が雲間に眺められる。

図5 絵葉書「蔵王山大観」 地藏岳



図6 絵葉書「蔵王山大観」 地藏岳（拡大）

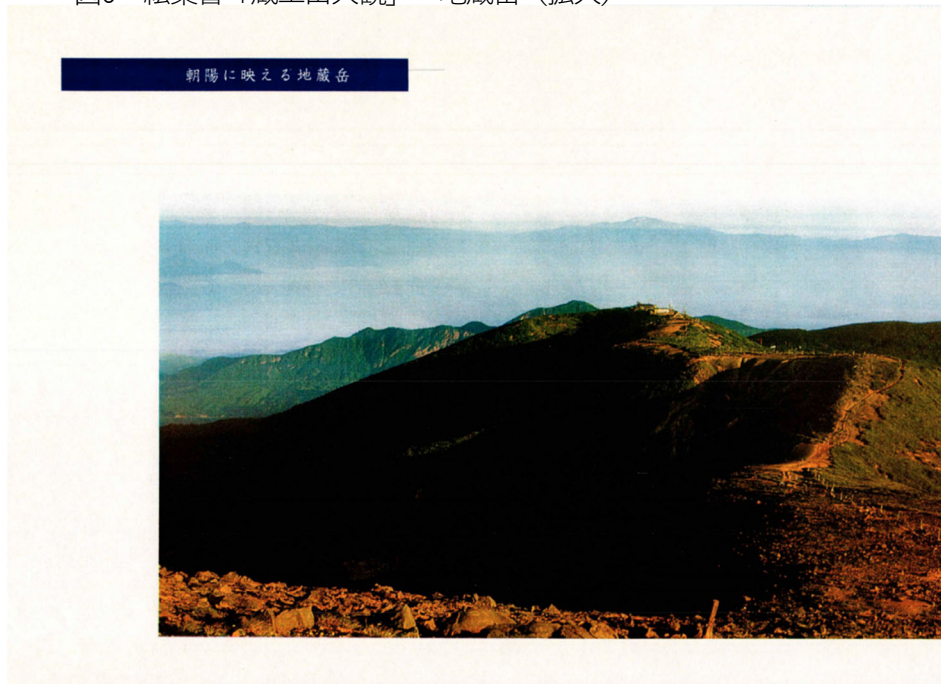


図7 絵葉書「蔵王エコーライン」 地藏岳



図8 絵葉書「蔵王エコーライン」 地藏岳（拡大）

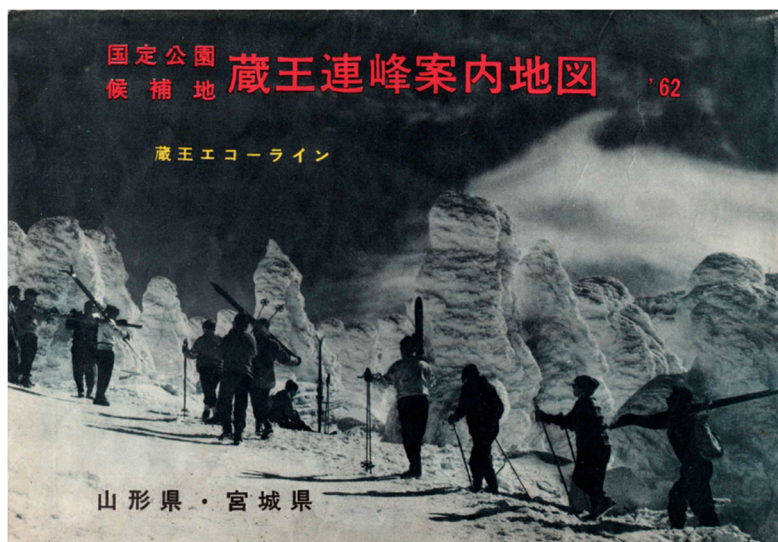


図9 「国定公園候補地 蔵王連峰案内地図 1962」 山形県・宮城県発行 表紙

山 小 屋									
登山口	名 称	位 置	経 営 者 または 管理者	収 容 人 員	有 無	の 別	料 金	開 設 期 間	番 入 ・ 電 話 其 他
上山口	セントラルロッヂ	上山市 蔵王高原(坊平)	山形交通 K. K.	200	○	○	○ 550~650 250	年 間	⑤ (上山) TEL 1,262
"	ロッヂニュー蔵王	"	日東金属 K. K.	60	○	○	650 400	"	④ TEL(上山)118
"	上山市ケビン	"	上山市 山形営業所					"	④ TEL 1,102
蔵王温泉口	山形営業所	"	山形市 水野市					"	
"	蔵王山の家	山形市蔵王温泉 ドソコ沼畔	山形県観光協会	200	○	○	700~900 ほか奉仕料 1 割	"	蔵王 46
"	蔵王山荘	"	山形観光 K. K.	200	○	○	600~800	"	蔵王 67
"	三五郎小屋	"	蔵王温泉組合	100	○	○	600	"	蔵王 72
"	ブナ小屋	"	山形県社会保険 協会	30	○	○	350	"	蔵王 65
"	樹氷の家	山形市蔵王パ ラダイス	関崎 蔵王パライ ス K. K.	150	○	○	600~800	"	蔵王 102
"	パラダイスロッヂ	"	蔵王パライ ス K. K.	150	○	○	900~2500	"	蔵王 105
"	山形山岳会山小屋	ドソコ沼 畔	山形山岳会	30	○	○	×	"	
"	こよしの小舎	山形市蔵王パ ラダイス	山形こだま会	20	×	○	×	"	
"	地蔵小屋	地蔵山鞍部	山形県観光協会	15	○	○	○	"	
"	地蔵三角小屋	地蔵山	東北大学	30	×	×	×	"	
奥山寺 遠刈田 口	ケビン	山寺キャンプ 場	山形市観光協会	25	×	○	×	7月~8月	
"	県営蔵王山小屋	蔵王山麓 コローライン	宮城県観光連盟	250	○	○	600 250	年中無休	TEL(青根)1951
"	賽の嶺	蔵王山麓 コローライン	渡辺 徳	200	○	○	600 250	"	
"	かもしか食堂	蔵王山麓 コローライン	渡辺 徳	50	○	○	600 250	"	
"	かもしか温泉	熊野岳湯川出合	渡辺 徳	100	○	○	600 250	"	
"	電通小屋	跡見坂	電通共済	30	×	○	×	"	管理依頼人蔵王山 小屋
"	こまくさヒュッテ	"	仙台市健保	30	×	○	×	"	"
"	避難小屋	刈田岳頂上	宮城県観光課	20	×	×	×	"	
"	倉石ヒュッテ	後鳥羽子山中	白石営林署	20	×	×	×	"	
"	清溪小屋	パラダイスコ ス親心平	東北大学	30	×	○	×	"	管理依頼人蔵王山 小屋
"	T.G.ヒュッテ	"	東北学院大	30	×	○	×	"	
南蔵王口	ユーズ・ホテル	南蔵王長老湖畔	七ヶ宿	50	○	○	400 100	年中無休	七ヶ宿 18

図10 「国定公園候補地 蔵王連峰案内地図 1962」 山形県・宮城県発行 山小屋一覧



図11 蔵王山周辺の航空写真 1970年10月7日撮影(国土地理院所蔵 TO708Y-C5B-4) (拡大)

令和4年(2022年)2月3日

山形大学

*詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 令和3年度山形大学校友会学生幹事企画 山大学生×若手卒業生交流会について

山形大学校友会学生幹事が企画した山大学生×若手卒業生交流会「第2回先輩！仕事の話とか聞かせてください！」を下記のとおり開催します。

日時：2月19日（土）14:00～16:00

形式：オンライン（zoom）

定員：50名

対象：山形大学生・大学院生／39歳以下の山形大学卒業生・修了生
（詳細はチラシをご覧ください。）

2. 令和3年度学生幹事企画「山大学生の活動支援プロジェクト(V)！」成果発表会について

山形大学校友会学生幹事による「山大学生の活動支援プロジェクトV!」として、今年度採択された10の学生団体が実施したボランティア等、様々な活動の成果報告会を開催します。

日時：2月22日（火）13:30～15:30

形式：オンライン（zoom）

参加費：無料（詳細はチラシをご覧ください。）

3. 令和3年度山形大学同窓生セミナーについて

例年開催している山形大学同窓生セミナー（旧OB&OGセミナー）について、今年度は下記のとおり開催します。首都圏で活躍されている卒業生の講演や現役山大学生のサークル活動、学部同窓会の活動などを紹介します。

日時：3月5日（土）13:00～15:30

形式：オンライン（zoom）

参加費：無料（詳細はチラシをご覧ください。）

4. 令和3年度山形大学特別イベント「文明開化の舞台 横浜を歩く」について

～バーチャル町歩きと落語口演をオンライン配信～

先月の学長定例記者会見にてご案内しました本イベントについて、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、オンライン配信へ切り替えて開催します。

日時：3月6日（日）13:15～16:30

形式：オンライン（zoom ウェビナー）

参加費：無料（詳細はチラシをご覧ください。）

第2回

「先輩！仕事の話とか聞かせてください！」

先輩と話したい！

目標ってどうたてるの？

就活が不安…



後輩に伝えたい！

今こんなことをしてるよ！

学生の頃していたこと



オンライン 交流会

2022. **2/19** (土)

14:00 ~ 16:00 (終了予定)

@オンライン (ZOOM)

参加費
無料

※要申込

「山大学生 × 若手卒業生 交流会」は、学生と若手卒業生を繋ぎ、
様々な発見をしてもらうことを目的としています。

「先輩と話したい」「就活について」「後輩にこれを伝えたい」

など、参加理由は何でもOKです。お気軽にご参加くださ

い！※スピーカー等は裏面をご確認ください。



対象

山形大学生・大学院生または
39歳以下の山形大学卒業生・修了生

定員

50名
※学生・院生、卒業生・修了生合わせて

主催

令和3年度山形大学校友会学生幹事

後援

山形大学卒業生等首都圏ネットワーク

お申し込み方法・締め切り

下記URLもしくは右QRコードから
必要事項をご記入の上、お申し込みください。
URL: <https://forms.gle/MmgheE6o9Ht8khaQ7>

申込締切 **2022年2月10日(木)**



お問い合わせ先

山形大学校友会事務局

山形大学エンrollment・マネジメント部校友会事務局(担当 | 樋口)

Tel | 023-628-4867 Fax | 023-628-4185 Mail | yu-kouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



第1部 14:10～14:55

「学生時代や仕事とかの話」

スピーカープロフィール

●スピーカー1[14:10～14:25]



きくち こうへい

菊地 航平

令和3年人文社会科学部卒業
かほくらし社
(河北町地域おこし協力隊)

「チーム道草」元代表。令和3年設立の地域商社かほくらし社で働く『新卒地域商社マン』。地域製品の販路拡大、ツーリズム、高校連携等、幅広い業務を担当。山形の小さな町から、日本一の地域商社を目指す。

●スピーカー2[14:25～14:40]



しまざき りさ

島崎 梨紗

平成27年人文学部卒業
株式会社 RiLi
(ファッションメディア運用等)

元八峰祭実行委員長、フリーペーパーサークル「Y-ai!」創設。新卒で人材広告会社に入社後、現在は株式会社 RiLi にてファッションメディアの運用等を担当。副業として結婚式のスタッフ、秋田県の会社のお手伝いをしています。

●スピーカー3[14:40～14:55]



きたがわ とうや

北川 冬弥

平成31年大学院理工学研究科修士課程修了
現在博士課程(社会人ドクター)所属
パナソニック株式会社(研究開発職)

平成31年4月パナソニックに入社し、現在まで音響エンジニアとして空間価値開発を行いながら、社会人博士課程に進学し、二足の草鞋を履き研究・論文執筆をして博士号取得を目指している。IEEE Sendai Young Professionals でChairを務めるなど、学外・社外でのコミュニティ形成にも力を入れている。

第2部 15:00～15:55

「学生と卒業生との交流会」

申込時のアンケート結果や第一部の内容を踏まえ、司会・パネリストの4名と参加者が自由に、気楽に話します。聴講のみの参加もOKです。

司会 : 外塚 未夢
(校友会学生幹事/農学部1年)

パネリスト : 菊地 航平さん

島崎 梨紗さん

北川 冬弥さん

樋口 浩朗
(校友会事務局長/平成5年人文学部卒業)

▶ タイムスケジュール

- 14:00 ● 開会・山形大学校友会とは
校友会事務局長 / 樋口浩朗
- 14:10 ● 第1部「学生時代や仕事とかの話」
- 14:10 ○ スピーカー1 / 菊地航平さん
- 14:25 ○ スピーカー2 / 島崎梨紗さん
- 14:40 ○ スピーカー3 / 北川冬弥さん
- 14:55 ○ 休憩
- 15:00 ● 第2部「学生と卒業生との交流会」
- 15:55 ● まとめ
- 16:00 ● 閉会



ぎんなちゃん

ぜひお気軽に
ご参加ください！

お問い合わせ先

山形大学校友会事務局

山形大学エンrollment・マネジメント部校友会事務局(担当 | 樋口)

Tel | 023-628-4867 Fax | 023-628-4185 Mail | yu-kouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



令和3年度学生幹事企画

「山大生の活動支援プロジェクト(V)！」

成果発表会

2022

2/22(火)

13:30-15:30

令和3年度山形大学校友会学生幹事による「山大生の活動支援プロジェクトV！」として今年度採択された10の学生団体が実施したボランティア等、様々な活動の成果報告会を開催します。学生の活動の成果を聞きに、ぜひいらしてください。

プログラム

13:00 ZOOM 入室開始

13:30-13:35 開会

13:35-15:15 成果発表

13:35-13:45 「山大生の活動支援プロジェクト」

Archi-eggs

13:45-14:25 「山形大学と交流する会プロジェクト」

花笠サークル四面楚歌 / VR部 DTM 作曲プロジェクト /

SCITA センター学生スタッフ / VR部 Blender 勉強会プロジェクト

14:25-15:15 「RethinkPROJECT(JT プロジェクト)」

IVY youth / 舟形プロジェクト / 模擬裁判実行委員会 /

データサイエンス勉強会 / YUCaN 学生会

15:15-15:30 各プロジェクト講評

15:30 閉会

令和3年度校友会学生幹事企画

山大生の活動を支援します！

山大生の活動支援プロジェクトV!



『活動支援プロジェクト』とは？

山形大学校友会学生幹事による「山大生の活動支援プロジェクト(V)！」として5年目の募集を実施します。山形大学の学生が主体的に取り組むさまざまな活動の活動経費の一部を支援することで、学生同士の交流を促進し活動の意欲や励みを一層高めることを目的としています。

今年度は、「山形大学と交流する会」と「日本たばこ産業株式会社山形支店」様より協賛を受け、「山形大学と交流する会プロジェクト」と「Rethink PROJECT(JT プロジェクト)」を追加して募集を行います。



募集内容

対象：山大生2名以上で構成される団体 ※1

支援金額：5万円

採択数：最大14団体 ※2

※1 山形大学の学生2名以上で企画する公認サークル、ボランティア団体、学生団体など。詳細情報は問わない。

※2 採択団体数は申請するプロジェクトにより変わります。

募集要項を添付してご覧ください。



過去の支援団体



平成30年度：東山プロジェクト



令和2年度：モミヤク特別支援隊



令和2年度：模範裁判実行委員会

野球場、宇賀橋公園、IVY youth、お昼の運動会サークル、Team 温泉、フリーバーサークルY-01、SCITA センター学生スタッフなど、様々な団体の活動を支援してきました！

応募について

応募方法・詳細はこちらをご覧ください▶

<https://www.yamagata-u.ac.jp/kouyuu/kyoukaishin/2021/02/21>

募集期間：令和3年9月1日～10月29日



お問い合わせ先

山形大学校友会事務局

エンrollment・マネジメント部 山形大学校友会事務局(樋口・山口・阿部)

TEL: 023-628-4867/4489 MAIL: ykoyuu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



日時：令和4年2月22日(火) 13:30-15:30

会場：オンライン(ZOOM)

対象：山形大学学生・大学院生・卒業生・修了生・教職員
・一般市民の皆さま

料金：無料

申込：下記 URL もしくは右の QR コードよりお申し込みください。

URL→<https://forms.gle/cMstEtkrfxPGr9Dm7>

申込期限：令和4年2月18日(金)



お問い合わせ先



山形大学校友会事務局(担当：樋口)

〒990-8560 山形県山形市小白川町一丁目4-12

TEL: 023-628-4867

MAIL: yu-koyuu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



山形大学校友会
Yamagata University Alumni Association

令和3年度

山形大学 窓生 セミナー

卒業生の皆様が一堂に集い、

首都圏において活躍されている卒業生の

講演を聴講しながら卒業生同士が交流する場として、

山形大学卒業生等首都圏ネットワークのご支援を

いただき開催しております。

参加無料/
**オンライン
開催**

講師

今年度は人文学部の卒業生に講師をお願いしました。



いのうち ゆういち
井口 雄一氏
トランスユーロ株式会社代表取締役
井口経営労務管理事務所所長



えのうえ さとし
江上 聡氏
シストランジャパン合同会社代表

令和4年

3 / 5 **土**
13:00 - 15:30

セミナー詳細

日時：令和4年3月5日（土） 13:00 - 15:30

会場：オンライン（ZOOM ウェビナー）

定員：100人

費用：無料

対象：山形大学の卒業生・修了生

主催：山形大学・山形大学校友会

後援：山形大学卒業生等首都圏ネットワーク

お申込み方法

FAX・メール・Google フォームのいずれかよりお申込みください。

○FAX・メール

裏面の参加申込書を FAX またはメールでお送りください。

○Google フォーム

下記 URL または右の QR コードより
お申込みください。

Google フォーム：

<https://forms.gle/3ymhbZ52g1qGiUqXA>



申込締切：**令和4年2月18日（金）**

お問い合わせ先

山形大学校友会事務局（担当：樋口）

TEL 023-628-4867 FAX 023-628-4185 MAIL yu-kouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

FAX・メールでの
お申込みは裏面へ→

講演1講師

いのくち ゆういち
井口 雄一 氏

「山形から世界へ① - そして今、母校との協働 -」



東京都出身
平成4年 人文学部英文科卒業
現在：井口経営労務管理事務所所長
トランスユーロ株式会社代表取締役

大学卒業後、日系・米系の航空会社、ドイツ系法律特許事務所を経て、現在は独英をメインとした翻訳会社であるトランスユーロ株式会社の代表取締役、井口経営労務管理事務所所長を勤める。

趣味はフライフィッシングで、最近は東北（主に山形）の溪に目覚めはじめている。

プログラム

- 13:00 - 13:05 開会・趣旨説明等
- 13:05 - 13:15 開会挨拶
山形大学学長 玉手 英利
- 13:15 - 13:40 講演1「山形から世界へ①」
井口 雄一 氏
- 13:40 - 14:05 講演2「山形から世界へ②」
江上 聡 氏
- 14:05 - 14:15 休憩・山大オリジナルグッズ通信販売紹介
協力：山形大学生生活協同組合・山形大学農学部高坂農場
- 14:15 - 14:45 サークル活動紹介
1. 花笠サークル四面楚歌
2. 混声合唱団
3. チアダンスサークル Cherries
- 14:45 - 15:15 学部同窓会活動紹介
- 15:15 - 15:25 意見交換
- 15:25 - 15:30 閉会挨拶
山形大学理事・副学長 矢作 清



ぜひ、ご参加ください！

講演2講師

えのうえ さとし
江上 聡 氏

「山形から世界へ② - 山大育ちの私が米国20年を経て想うこと -」



山形県高島町出身
平成8年 人文学部英文科卒業
現在：シストランジャパン合同会社代表

平成10年に大学院留学のため渡米し、約20年間に米国で過ごす。平成13年に自動翻訳大手の米国シストラン社に入社。令和2年に帰国し、新設したシストランジャパン合同会社の代表を務める。

趣味はサーフィン。最近は筋トレに精を出している。

令和3年度
山形大学同窓生セミナー参加申込書申込書
送付先

023-628-4185(FAX)

yu-kouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp(メール)

※参加1名につき1枚の申込書にご記入し、お申込みください。

ふりがな				
お名前	姓	名		
卒業学部 修了研究科		卒業年 修了年	昭和・平成・令和 年(卒業・修了)	
住所	〒			
ご連絡先	電話番号	()	FAX	()
	メールアドレス	必須 @		

【個人情報について】参加申込書の個人情報は、本セミナーの手続きや山形大学のイベントのご案内のみに使用させていただきます。

文明開化

の舞台

横浜

を歩く

江戸から近代へ

歩町
き

山

形との縁も深く、
江戸から近代へ文明開化の舞台となった横浜で、
町歩きと落語口演、対談をオンラインで実施します。

第1部 (13:15 ~ 14:45)

横浜町歩き - 文明開化の舞台を探访 -

文明開化の舞台となった横浜は、庄内藩出身の幕末の志士清河八郎や置賜盆地を「アルカディア〔桃源郷〕」と賞美したイザベラ・バードのほか、米沢牛や山形産シルクなど、山形との縁も深い地です。
山本陽史教授をナビゲーターに、江戸から近代にかけての変化の名残をオンラインで探访します。

■予定コース

アメリカ山公園 → 横浜外国人墓地資料館 → 港の見える丘公園 → フランス山 →
山下公園 → 氷川丸 → 山下臨港線プロムナード → 象の鼻テラス →
クイーンズ塔（横浜税関） → 日本大通り
※途中で休憩をはさみます。また、後半に質疑応答の時間を設けます。

第2部 (15:00 ~ 16:30)

桂伸治師匠 落語口演・対談「江戸から近代へ」



落語家
かつら しんじ
三代目 桂 伸治



山形大学（日本文学）
やまもと はるふみ
教授 山本 陽史

令和 4 年 3 月 6 日 日

12:30 入室開始 / 13:15 開始 / 16:30 終了

会場
オンライン (ZOOM)

参加費
無料

定員
100 名 (先着)

■お申し込み

下記 URL または右の QR コードよりお申し込みください。

URL : <https://www.yamagata-u.ac.jp/form/r3event/>

令和 4 年 2 月 8 日（火）午前 10 時から受付を開始します。

申込みフォーム送信後、受付完了の自動返信メールを通知します。

※参加決定者には 3 日前までに申込み時のメールアドレスへ ZOOM の URL をご連絡いたします。



■お問い合わせ



山形大学総務部総務課秘書広報室

TEL : 023-628-4008

MAIL : yu-koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp